

## 2019年度 四国支部視察研修会 実施報告書

- 1 視察先 : ①CEATEC2019  
②JAXA 調布航空宇宙センター
- 2 研修期間 : 2019年10月16日～17日 (2日間)
- 3 参加者 : 7名 (4社)

### ①10/16(水) 13:30～16:30 CEATEC 2019 視察 (幕張メッセ)

2019年度四国支部調査研究事業の一環として、「CEATEC2019視察研修会」を実施した。今年の出展者数は787社、来場者数は4日間で144,491人であった。「つながる社会、共創する未来」をテーマに開催され、IT・エレクトロニクスに留まらず、金融、旅行、玩具、住宅、工作機械、建築、通信、ヘルスケアなど、幅広い業種・産業からの出展があった。

「Society 5.0」の目指している豊かな社会づくりの実現に向けた様々な業種の企業による先進的な取り組みを学び、未来の社会や暮らしを垣間見ることができた。

#### <参加者の感想>

- ・すべての業界が高度自動運転、AI、VR、AR、5G等、超スマート社会の実現に関連する内容で一昔前の映画のような世界が実社会に実現されることが実感できた。
- ・5Gにより大容量の高速通信、多接続が可能になることでAIとの共創により、これからの社会に大きな変革をもたらすように感じた。
- ・「高速・大容量」「多接続」「低遅延」といった通信が可能となる5Gインフラをどういうサービスに繋げるかというところで、どのメーカーも他社と差別化できるような斬新なアイデアが提供できておらず、まだ手探り段階であると感じた。
- ・NTTブースでは4K/8Kの映像を合成し、超ワイドな映像を提供することで高い臨場感を示していた。放送は不特定多数に同じサービスを同時に提供できるというメリットがあるものの、単純に映像を提供することを考えると5Gの方が地上デジタルより数段優れていた。「放送は同時送信ができる」というだけでは防災無線と変わらないため、災害時以外の放送に対する需要を維持できるのか、放送業界の先行きに疑問を感じた。
- ・大成建設と日本マイクロソフトとの協業によるAIやIoTを活用した施設運用と保守事業の展開は革新的だと感じた。私たちが新たな時代へ向けての様々な技術を取り入れていく必要があると感じた。



## ②10/17（木）10：00～12：00 JAXA 調布航空宇宙センター視察

視察研修先として調布市のJAXA 調布航空宇宙センターを訪問した。

本センターは JAXA の中で航空技術の研究を推進する唯一の拠点として、日本の航空産業の成長に貢献し、行政ニーズに応える次世代航空技術の研究開発や将来の宇宙プロジェクトを先導する先行的な宇宙技術の研究を行っており、風洞設備や航空エンジン試験設備、実験用航空機、スーパーコンピュータなど日本有数の大型試験設備が整備されている。

また、今回は世界最高水準の風洞実験設備を特別に見学することもでき、有意義な研修となった。

### <参加者の感想>

- ・航空機の開発にも AI が関連し機体の形を作り出しているとのことであり、開発のスピードが格段に速くなっていく一方で、ロケットや風洞等、特殊な実験を重ねて一つ一つ地道に検証し、安全で安心して人間が利用できるものが作り出されている事を実感した。
- ・やはり、JAXA といえば宇宙を想像するところだったが、今回の航空に関する研究施設の見学や説明も興味深く、おもしろかった。
- ・コンコルドが超高速飛行可能であることは知っていたが、音の問題で存続できなくなったなどの知りえない話を聞くことができ面白かった。
- ・当初、宇宙ではなく航空に関する研究施設ということで、少し残念に思うところもあったが、見学できた設備は日頃接することのないものであり、非常に楽しめた。
- ・航空機等の空気抵抗、流れを測定する風洞測定室の映像は TV で見たことがあったが、実際の装置は想像していた以上に大型だったため驚かされた。
- ・宇宙や航空機の研究内容について実際に見ることができ大変貴重な視察となった。屈折率の違いから風の流れを可視化できるシュリーレン装置は高精度であり、自分の吐息の流れや僅かな空気の流れまでくっきりと分かり面白かった。

